

IAIR 体験コース

～骨盤の評価～

■ 骨盤を治療する意義

- ・ 骨盤は幾つもの骨の集合体であり関節が多い。しっかりと評価する必要がある。
- ・ 骨盤は身体の土台。土台である骨盤が崩れれば、全てが崩れる。
- ・ 股関節は他関節と違い詰まって固まり、クリアランスが悪くなる。

■ 仙腸関節のパターン

<頭蓋骨と連動>

- ・ RPI タイプ

胎児の時に左前頭部を下にしていた場合に起こる。(8～9割)

- ・ LPI タイプ

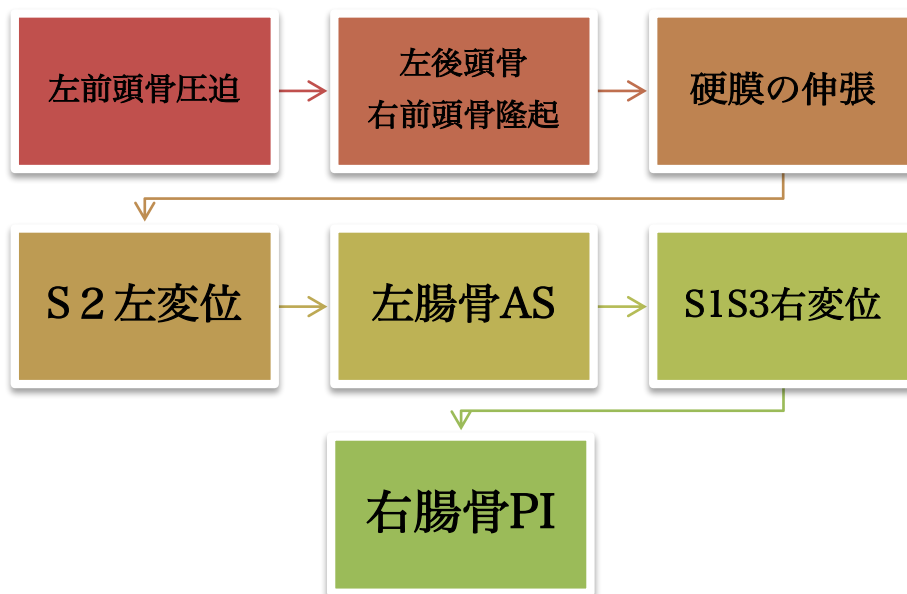
胎児の時に右前頭部を下にしていた場合に起こる。(1～2割)

- ・ WPI タイプ

RPI・LPI がさらに進行し、身体が固まる事(老化)によって起こる。

* A 前、P 後、S 上、I 下

<頭蓋骨の位置から仙腸関節への機序>



* LPI は左右逆の機序で骨盤が歪む。WPI はこの状態から身体が骨盤の変位を代償し続けることで起こる。

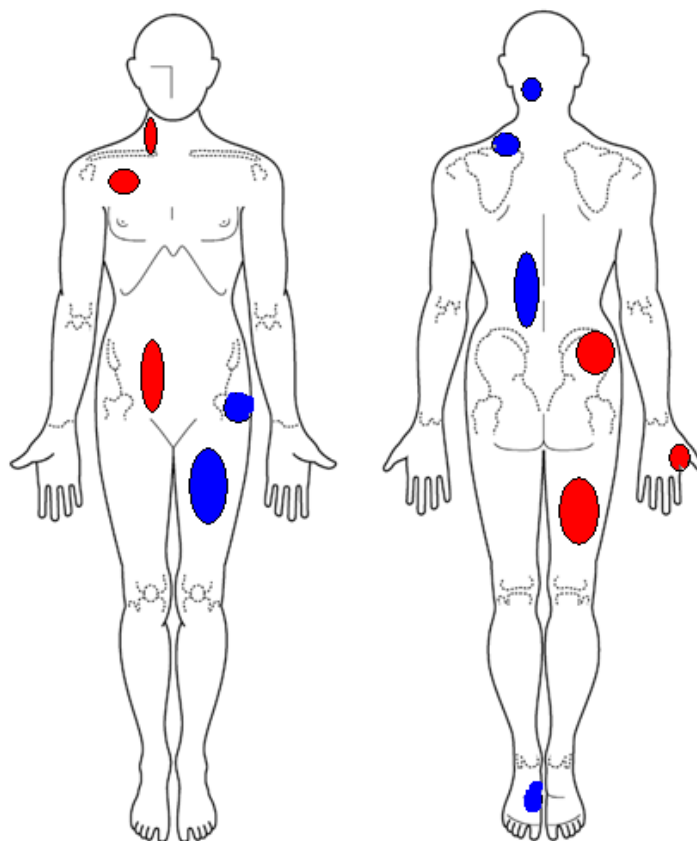
<骨盤のパターン別全身への影響（圧痛点による評価）>

PIサイド：赤丸

- ①ハムストリングス
- ②右腹部
- ③大胸筋
- ④胸鎖乳突筋
- ⑤手部
- ⑥大臀筋

ASサイド：青丸

- ①大腿四頭筋
- ②大腿筋膜腸筋
- ③僧帽筋
- ④後頭下筋
- ⑤腰背部
- ⑥足底部



(人体百科HPより転写)

理論的背景：

骨盤の変位による筋連鎖の関係は、筋の起始・停止で説明出来る。

P I 側（腸骨が後下方に変位）

→坐骨が下方に変位するためハムストリングスが収縮位となり緊張で圧痛+。

→腸骨が後傾位になることで腹直筋が収縮位となり緊張で圧痛+。さらにこの緊張のため肋骨が下方に引っ張られ、それに伴い大胸筋も下方に引っ張られ収縮位となり肩甲骨がプロトラクト。同時に鎖骨も下方に引っ張られ胸鎖乳突筋も収縮位で圧痛+。

→これらの屈筋群の収縮がパターン化され手指の屈筋も筋緊張が高くなる。

A S 側（腸骨が前上方に変位）

→坐骨が上方に変位するため大腿直筋が収縮位となり緊張で圧痛+。

→腸骨が前傾位になることで脊柱起立筋が収縮位となり緊張で圧痛+。さらにこの緊張のため広背筋が緊張で肩甲骨がリトラクト。

→これらの伸筋群の収縮がパターン化され頸部の伸展筋の緊張が高くなり、足底の伸筋も筋緊張が高くなる。